別紙1

令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

計画事業番号	448	事務事業名	応急手当普及啓発事業	担当部署	消防署救急課・救急企画課	電話	6201

【基本情報】

事務区分	■自治事務　□法定受託事務		根拠法令等	救急業務実施基準第32条、住民に対する応急手当の普及啓発の推進について（消防庁通知）			
事務事業開始年度	平成8年度		個別計画等	-			
〃　終了予定年度							
ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系(現総合計画)		（第３章）　美しい環境につつまれた安全なまち
		（第５節）　消防・救急体制の充実
		（施策３）　救急救命体制の充実
2 対　象		市民及び市内への通勤通学者（施設の職員、学校関係者、10歳以上の学生）及び町内会等
3 目的と内容		・救急車が到着するまでの間、重篤な傷病者に対して迅速・的確な応急手当ができる市民を養成するため、AED（自動体外式除細動器）の使用と心肺蘇生法を含めた救命講習会を開催して救命率の向上を図る。また、救命講習会等での救急車の適正利用や応急手当実施者への心のケアについても引き続き周知を図る。
4 実施内容（手　段）	2019年度まで	「応急手当普及啓発活動の推進に関する実施要綱」に基づいた普及啓発活動を実施しており、平成17年10月に内容を一部変更（AEDの使用を含めた心肺蘇生法の追加）し、さらに平成20年度からより高度な「上級救命講習」を追加実施している。また、実施要綱の一部改正に伴い平成24年から「普通救命講習III（小児、乳児、新生児）及び救命入門コース（受講の対象を小学校高学年以上とし内容を簡素化した導入コース）」を新たに加え、市立保育園の職員及び市立小学校高学年対象の講習会を実施したほか、従来の「普通救命講習」や「一般救命講習」も継続して開催している。例年2千人以上が講習を受講しており、市民ニーズにあった講習会を実施するために講習資器材の整備、更新を図り、講師の知識及び技術の習得に努めてきた。
	2020年度	事業内容は昨年度までと同様であるが、新型コロナウィルスの感染防止から7月まで講習会の開催を中断してきた。8月より講習人数や実施スペースの確保などの条件付きで段階的に再開する。受講人数は少なくなるが少しでも要望に応じた講習会を開催し救命率向上に努める。また、講習会開催時には昨年に引き続き救急車の適正利用や応急手当実施者に対する精神的負担軽減についても説明を行う。

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
救命講習会（普通・上級・一般・救命入門コース）の実施 講習会用資機材の購入 （AEDトレーナー、消耗品、講習会用ﾊﾟｿｺﾝの更新）	講習回数　102回 受講者数　2,332人 （内訳） 普通救命　58回　1,132人 上級救命　1回　10人 入門コース　16回　519人 その他　27回　671人 訓練用AEDﾄﾚｰﾅｰの更新 講習会用ﾊﾟｿｺﾝの更新	救命講習会（普通・上級・一般・救命入門コース）の実施 講習会用消耗品の購入		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統　合」 「休止・廃止」 「終　了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。今後も受講者ニーズに合わせた各種救命講習会を開催し、救急車が到着するまでの応急手当の普及拡大を図り救命率向上に努める。また、感染拡大防止のため国が示すガイドラインに沿った講習会とし受講者の安全に努める。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

（単位：千円）

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			915		555					
事業額	直接事業費	国支出金	0		0					
		道支出金	0		0					
		地方債	0		0					
		その他特財	0		0					
		一般財源	915		555					
		① 合 計	915		555					
	人 件 費（左側：一般、右側：再任用）	② 人 数（年間）	0.15	0.80	0.14	0.80				
		③ 1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500				
		④ ＝②×③	1,230	3,600	1,148	3,600				
	総事業費①＋④		5,745		5,303					

【評価指標】

	指 標 名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	①救命講習回数	目標値	回	110	50		
		実績値		102			
	②受講者数	目標値	人	2,200	1,000		
		実績値		2,332			
	③	目標値					
		実績値					
	④	目標値					
		実績値					
成果指標	① 1ヶ月後社会復帰率	目標値	%	9.1			
	当市社会復帰率/市民AED使用率	実績値		0			
	②	目標値					
	【指標の定義（算式等）】	実績値					
	③	目標値					
	【指標の定義（算式等）】	実績値					

【評価項目】

	チェック項目	評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと（補助すること）が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	高齢化等に伴う救急需要の増加により救急隊の現場到着時間が延長している。その中で現場に居合わせた市民による応急手当は、救命率向上に欠かせないものである。講習受講者が目標数を上回っている状況が続いていることから引き続き市が普及啓発を行うことが妥当である。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	新型コロナウィルスの感染防止から年度末まで講習会の開催を中断したが、受講人員は目標値を上回っている。また、救命講習受講者がAEDを使用して心肺蘇生法を実施し、社会復帰した事例も過去あったことから成果が上がっていると考える。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	感染防止に努め、より多くの救命講習受講者を増やすことで救命率の向上を見込んでいる。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	使用資器材を消毒することや修了証の材質を変更することでコスト削減に努めている。しかし、必要最低限の消耗品や消毒資器材の購入、経年劣化に伴う備品購入を計画的に行う必要がある。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】（事業担当部局が評価）	□ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 ■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。

別紙1

令和2年度 事務事業評価調書（事後評価用）

北広島市

計画事業番号	450	事務事業名	救急体制強化事業	担当部署	消防署救急課・救急企画課	電話	6201

【基本情報】

事務区分	■自治事務　□法定受託事務	根拠法令等	消防組織法第6条
事務事業開始年度	平成16年度	個別計画等	・ﾒﾃﾞｨｶﾙｺﾝﾄﾛｰﾙ体制「石狩・後志圏消防本部」運営に関する覚書（H16.4.1） ・ﾒﾃﾞｨｶﾙｺﾝﾄﾛｰﾙ体制構築に関する覚書(H16.4.1)～札幌医科大学
〃　終了予定年度			

ソフト・ハード区分	ソフト事業	会計区分	一般会計	補助単独区分	単独	新規継続区分	継続

【事業概要】

1 総合計画体系(現総合計画)		（第３章）　美しい環境につつまれた安全なまち
		（第５節）　消防・救急体制の充実
		（施策３）　救急救命体制の充実
2 対　象		救急救命士及び救急隊員
3 目的と内容		・メディカル・コントロール（以下MCと記載。）体制において、医師による救急活動の事後検証や病院実習、指示・指導・助言を通し救急救命士の資質向上を目的とし救命率の向上を図る。また高度な気道管理を行える気管挿管認定救急救命士の養成を継続するとともに、平成26年4月に薬剤認定救急救命士へブドウ糖の投与と心肺停止前の静脈路確保が認められたことから、これらに伴う追加講習を全ての薬剤認定救急救命士へ計画的に受講させる。さらに救急救命士や救急隊員に対し救急現場での知識、技術を伝承する指導的立場の救急救命士を養成し救急業務の充実化を図る。
4 実施内容（手　段）	2019年度まで	①救急救命士就業中研修（札幌医科大学附属病院）　②救急救命士就業前研修（札幌医科大学附属病院） ③気管挿管再認定講習（札幌医科大学東棟）　④気管挿管病院実習（北海道医療ｾﾝﾀｰ） ⑤ﾋﾞﾃﾞｵ硬性喉頭鏡講習（札幌医科大学東棟）　⑥ﾋﾞﾃﾞｵ硬性喉頭鏡病院実習（北海道医療ｾﾝﾀｰ） ⑦処置拡大2行為講習（札幌医科大学東棟）　⑧救急活動事後検証 ⑨石狩・後志地域検証部会（年度内２回実施）　⑩石狩・後志地域教育部会（年度内２回実施） ⑩石狩・後志地方連絡協議会研修会（合同2回地域各1回の計4回）
	2020年度	①救急救命士就業中研修（札幌医科大学附属病院）×15名 ②救急救命士就業前研修（札幌医科大学附属病院）×2名　③気管挿管再認定講習（札幌医科大学東棟）×2名 ④ﾋﾞﾃﾞｵ硬性喉頭鏡講習（札幌医科大学東棟）×1名　⑤気管挿管病院実習（北海道医療ｾﾝﾀｰ）×1名 ⑥指導的救急救命士研修（札幌医科大学附属病院）×1名　⑦救急活動事後検証 ⑧石狩・後志地域検証部会（年度内2回実施予定）　⑨石狩・後志地域教育部会（年度内1回実施予定） ⑩石狩・後志地方連絡協議会研修会（本年度は書面研修にて開催予定）

【事業の計画・実績】

2019年度		2020年度	2021年度	2022年度
計画	実績	計画	計画	計画
就業前・就業中研修 気管挿管病院実習 気管挿管再認定講習 ビデオ喉頭鏡講習及び病院実習 2行為拡大講習（輸液・ブドウ糖及び血糖測定） MC連絡調整会負担金	①救命士就業中×14名 ②救命士就業前教育×2名 ③気管挿管再認定講習×2名 ④ﾋﾞﾃﾞｵ硬性喉頭鏡講習×2名 ⑤ﾋﾞﾃﾞｵ硬性喉頭鏡実習×3名 ⑥処置拡大2行為講習×1名 ⑦気管挿管実習×1名 ⑧救急活動事後検証（70件） ⑧石狩後志地域検証部会（1回実施） ⑨石狩後志地域教育部会（1回実施） ⑩石狩後志研修会（合同2回各地域1回） ⑪MC連絡調整会負担金	就業前・就業中研修 気管挿管病院実習 気管挿管再認定講習 ビデオ喉頭鏡講習 指導的救急救命士研修 MC連絡調整会負担金		

【評価結果・評価コメント】

総合判定		次期総合計画に向けた具体的な方向性	評価区分
前年度2次評価	現状継続	現状継続とする。	「拡大」 「現状継続」 「要検討」 「見直し」 「統　合」 「休止・廃止」 「終　了」
1次評価	現状継続	現状継続とする。専門的知識と高度な技術を有する各種認定救急救命士の充足と救急救命士を指導する指導的立場の救急救命士を養成し教育体制の充実を図る。	
2次評価	現状継続	現状継続とする。	

【事業費の推移】

(単位：千円)

			2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
決算額、当初予算額又は推進計画額			1,662		2,099					
事業額	直接事業費	国支出金	0		0					
		道支出金	0		0					
		地方債	0		0					
		その他特財	48		89					
		一般財源	1,614		2,010					
		① 合 計	1,662		2,099					
	人 件 費 (左側：一般、右側：再任用)	② 人 数 (年間)	0.82	0.00	0.90	0.00				
		③ 1人当り年間平均人件費	8,200	4,500	8,200	4,500				
		④ ＝②×③	6,724	0	7,380	0				
	総事業費①＋④		8,386		9,479					

【評価指標】

	指 標 名		単位	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
活動指標	① 救急出動	目標値	件				
		実績値		2,337			
	② 高度救命処置件数	目標値	件				
		実績値		47			
	③ 傷病者の心拍再開又は呼吸再開率	目標値	%				
		実績値		15.2			
	④ 処置拡大2行為実施件数	目標値	件				
		実績値		23			
成果指標	① 研修実習率	目標値	%	100	100		
	研修済者÷研修予定者	実績値		93.3			
	② 1ヶ月後の社会復帰率 (全国)	目標値	%	9.1	9.1		
	社会復帰症例数÷心肺停止症例数 (当市)	実績値		2.1			
	③	目標値					
	【指標の定義 (算式等)】	実績値					

【評価項目】

	チェック項目	評点	コメント
妥当性	・税金を使って行うこと (補助すること) が妥当ですか？ ・上位の施策への貢献度は大きいですか？ ・特定の団体の利益に偏っていませんか？ 【評点欄】3妥当、2どちらかというと妥当、1妥当でない 【コメント欄】理由を記入	3	救急業務に対するニーズは年々高まり市民からの期待は大きく出動件数も年間2,000件を常に超える状態が続いている。また、救急救命士は常に新しい知識、技術、処置を取得するため、研修や病院実習を受けなければならず、市民のニーズに応えるためにも妥当であると考える。
達成度	・計画どおりに成果があがっていますか？ 【評点欄】3あがっている、2どちらかといえばあがっている、1あがっていない 【コメント欄】理由を記入	3	救急救命士の処置が高度化し、計画に沿って各種認定救急救命士も増加している。また、今後指導的立場の救急救命士が救急現場の知識や技術を伝承しさらに教育体制の充実が達成できる。
成果向上	・成果が現状よりも向上する可能性がありますか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】成果を向上させるための方策、代替策を記入	2	各種認定救急救命士が医師の指導下においてそれぞれの立場に応じて目標を持った病院実習を行うことや、指導的立場の救急救命士が救急現場の知識や技術を伝承することで、更なる救急活動の向上が図られる。
経済性	・現在の成果を落とさずにコスト(予算・所要時間等)を削減するための方法はありませんか？ 【評点欄】3余地なし、2余地あり、1余地大きい 【コメント欄】コストを削減するための方策、補助金の減額・削減について具体的に検討し、検討内容を具体的に記入	3	石狩・後志振興局管内の9消防本部が共同で実施することでコストを抑え財政負担を軽減している。

【法律で実施が義務付けられている事務事業か】	□ 法律の義務付けあり　■ 法律の義務付けなし

【民間活力の活用性評価】(事業担当部局が評価)	□ 民間等での実施または市民等との協働が可能である。 ■ 民間等での実施または市民等との協働の可能性はない。